

第4回 サイバーセキュリティ経営プラクティス検討会

日時・場所 平成31年1月31日(木) 15:00-16:45 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

出席者

[委員] 橋本委員長、荒川委員、上野委員、落合委員、小松委員、教学委員、宮下委員

[オブザーバー] 経済産業省 商務情報政策局 サイバーセキュリティ課 石見課長補佐、伊奈課長補佐、元木係長
IPA 塩田氏、近藤主幹、伊藤氏

[事務局] IPA 瓜生セキュリティセンター長、小川グループリーダー、木内研究員、ジリエ研究員

PwC あらた有限責任監査法人 綾部パートナー、平岩ディレクター、海老原マネージャー、高木氏、石川氏

議事概要

第4回検討会では、IPAより「サイバーセキュリティ経営プラクティス作成」のためのプラクティスドラフト作成状況の説明ならびに、「可視化方式調査」状況についての説明の後、委員と意見交換を行った。委員からの意見は以下の通り。

【サイバーセキュリティ経営プラクティスドラフトについて】

① プラクティスの想定読者や利用シーンについて

- ・ プラクティスの想定読者や利用シーンをより具体的に記載するべき。セキュリティ担当者とする、マネジメントレベルではないため、サイバーセキュリティ対策の実行責任者の方が分かりやすい。
- ・ 成長戦略としてデジタルトランスフォーメーションを掲げる企業が増えている。事業の軸足をITに移したいと考えている企業を想定対象とすると浸透していくのではないかと。
- ・ 企業規模や業種ではなく、自社のセキュリティ対策がどこまで講じられているかを観点とし、サイバーセキュリティ対策をこれから行う企業を想定対象としてよいのではないかと。
- ・ サイバーセキュリティ対策の実行責任者の悩みとしては、経営陣の理解が得られづらいことが想定されるため、その人が最初の一步として何をしたらよいか書かれていると分かりやすい。

② プラクティスの内容について

- ・ 中堅以上の企業であれば、既に個人情報保護を中心とした情報セキュリティに対する理解は進んでいると考える。その中で、サイバーセキュリティ対策の取組みが足りないと感じた人に向けたプラクティス集だとすれば、プラクティスとして取り上げる内容はサイバーセキュリティに特化して記載していくべきではないかと。
- ・ 情報セキュリティとの違いを認識してもらうために、サイバーセキュリティの特徴を記載するのはどうか。サイバー攻撃は時間との勝負であり、検出も難しい。そのために、最低限準備すべき事やどのように始めたらよいかを平易な言葉でポイントを絞って記載するべきである。
- ・ サイバーセキュリティ対策を講じたら、サイバー攻撃が防げると認識している経営陣もいるかもしれない。サイバー攻撃は防ぎきれないということを前提としてもらいたい。
- ・ 新たにCISO等に任命された場合に、具体的に何をどのようにしたらよいか。また、サイバーインシデントが発生してしまったときに、どうしたらよいか記載されているとよい。
- ・ 予算を確保する際に、経営陣から他社の対策状況を聞かれることが多いと想定される。他社の事例や比較対象として使ってもらえるのではないかと。
- ・ 体制や予算が潤沢でない中堅企業が自社でも取り組めると思えるような水準の内容がよいのではないかと。

以上